

おい町まちづくり政策コンテスト



DATA

●主な連携先・メンバー

おい町役場／役場総合政策課
株式会社ジャパンインターナショナル総合研究所／都市設計研究室

●活動地域

福井県おい町

●活動資金

おい町役場から交通費、宿泊費の支給(16万円)

活動の目的

- 1 移住・定住・交流人口の拡大につながるまちづくりのアイデアの考案
- 2 まちの課題や地域資源、隠れた魅力を見出し、まちづくりのアイデアを提言

連携にいたる経緯

関西大学の地域連携・高大連携グループからの紹介を受けて、研究室テーマと近いことから、参加を決定した。

活動内容

参加校は関西大学を含め、嵯峨美術大学、北九州市立大学、大阪学院大学、近畿大学、島根大学の6校、7チームが参加しており、福井県おい町で、まちの課題、未利用となったストックを発見するために三日間のフィールドワークを行った。フィールドワーク内では、住民へのヒアリング、ワークショップを通して、交流を行うことにより、まちの人たちの思いを汲み取り、実際におい町に足を運ぶことにより、その町の課題や魅力を見出した。調査から、産業の衰退で未利用地となった耕作放棄地でもう一度農業を活性化させるのではなく、新たな産業で再生することをめざし、おい町の地形、気候を調査から読み取り、養蜂が適していることがわかり、おい町での養蜂産業を行うことで、養蜂家と町の住民の共創を図り、産業を風景化する提案を行った。



養蜂産業の提案



ワークショップ風景



養蜂産業が育むまちの新たな景観

活動の成果

- 1 おい町での養蜂・住民と養蜂家の共創・産業の風景化から空間デザインまで提案
- 2 おい町在住の若狭高校の生徒の前での発表、意見交換の実施
- 3 コンテスト内で最優秀賞を受賞

今後の課題・目標

- 1 今回での提案で実現の可能性があるため、提案の実現性を高めて行きたい
- 2 日本でのこのようなまちの課題に対してどう考えるべきか知識を深めたい

●教員紹介



環境都市工学部 教授 木下 光(きのした ひかる)

モノ×ヒト=コトをコンセプトとして、香港・シンガポールを中心に公設市場・ストリートマーケット研究、アジアにおけるクールルーフ・ルーフスケープとしての瓦及び瓦建築の研究・開発、開かれた公共空間のデザインや管理運営、都市住宅における敷地計画・住環境形成、戦後日本の都市デザイン論などの研究を行っている。